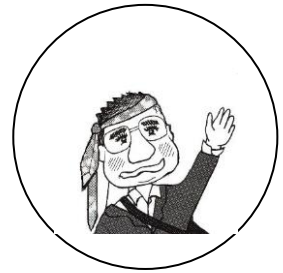


大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail: daimao@travelmitra.jp)

「インド・大菩提寺物語」⑧ 最終章

さて、裁判官たる読者諸氏は、いかなる裁定を下したであろうか。

鎌倉時代に放棄した館を、六百年後に子孫から返せといわれても明治時代の住人は困惑するだろう。また、アパートの家主から「わが息子を入居させるので出ていけ」と言われても困る。居住権があり、出ていけ、出て行かないで裁判沙汰になり、解決が長引くことになる。さて、どうしたものか……。居住権だけでも揉めるのに、そこに「宗教」が加われば、さらに問題が複雑になる。

まずは、大菩提寺の歴史を概観してみよう。

1. B.C. 5 世紀：シッダールタが菩提樹下（現・大菩提寺）で悟りブッダとなった。
2. B.C. 3 世紀：アショーカ王が小さな精舎を建立。
3. 5 世紀：法顕（3 寺院、僧伽藍あり、大塔、金剛宝座の記述なし）
4. 7 世紀：玄奘（6 寺院、菩提樹、大塔、金剛宝座の記述なし）
5. 12 世紀：イスラム教徒によって破壊略奪。（1203 年ヴィクラマシーラ寺院破壊でインド仏教滅亡）
6. 13 世紀：チベット僧ダルマスヴァーミン参詣。大菩提寺の扉は煉瓦と漆喰で固く閉じられていた。扉には大自在天の像を描き、仏教寺院であることを隠していた。
7. 1590 年 シャンカラの伝統を受け継ぐゴサイン・ガマディ・ギリが巡礼の途中で立ち寄り定着。
8. 1864 年 考古学者カニンガムが発掘。
9. 1890 年 スリランカ僧ダルマパーラが釈興然と参詣。（大菩提寺復興運動始まる）
10. 1902 年 岡倉天心、ヴィヴェーカーナンダと参詣。（レストハウス建設計画頓挫）
11. 1949 年 ブッダ・ガヤー寺院法施行（ブッダ・ガヤー寺院管理委員会発足へ）
12. 1953 年 大菩提寺をマハント（ヒンドゥー僧院長）から管理委員会へ依嘱。
13. 1992 年 大菩提寺奪還闘争始まる。

以上のように、それぞれの立場の違いから、出ていけ！出て行かない！で揉め続けたが、1953 年に管理委員会に依嘱された。これで問題解決かと思いきや、管理委員会の構成が問題となった。委員長は地区の行政官（ヒンドゥー教徒の役人）がなり、仏教徒 4 名、ヒンドゥー教徒 4 名の計 9 名で構成される。これだと仏教徒が不利になるので、「全員仏教徒にせよ！」というのが、件のシュプレヒコールである。

なるほど仏教徒としては、一理ある。「仏教徒の、仏教徒による、仏教徒のための大菩提寺」と叫べば、特に日本の仏教徒・僧・学者が同調した。

ところで、この「仏教徒とはなに者なのか？」と、わが輩は問うてみたい。

1. 五戒を受け、守れば、仏教徒といえるのか？

守れなければ仏教徒といえないのか。

2. 二百二十七戒を受け、守れば、僧といえるのか？

守れなければ仏教僧といえないのか。

3. テーラヴァーダ仏教（スリランカ、タイなど）と大乘仏教（日本）。

どちらが優れ、どちらが本当の仏教といえるのか？

ヒンドゥー諸神（毘沙門天、歓喜天）を信仰している日本人は、ヒンドゥー教徒か？

4. ヒンドゥー教徒で、ブッダを尊崇している人は、“ブッダ教徒”といえないのか？

宗派が大事か、信仰が大事か、これは一考する必要がある。

以上をよくよく考えてみると、「仏教徒」の概念は漠然（柔軟性）としたものだと知れる。そうすると、ブッダをビシュヌ神の九番目の化身（アヴァターラ）と信じる人、ブッダをバガヴァーン（神さま、薄伽梵）と思っている人だって、大菩提寺に参詣する権利があるのではないかとさえ思えてくる。

仏教への改宗以前（70年前）に、大菩提寺に参詣していたインド人は、殆どがヒンドゥー教徒であった。そうすると、数百年間もブッダを尊崇してきたヒンドゥー教徒を、今日に排除することに「理と利」があるのか、一考の必要がある。

そう考えると、シュプレヒコールを叫んでいる僧たちは、誰のために叫んでいるのか、と疑問符がつく。全仏教徒のためという大看板を掲げているが、なぜかダライ・ラマ親下は入っていない。

近年ヒンドゥー教から改宗した仏教徒が増大している。増えれば増えるほど多数派になり、ベンガル仏教徒、ラダック仏教徒、チベット仏教徒などの少数派が疎外されることになる。多数派になれば派閥ができるのが常である。今までもそうだが、仏教徒内で権力抗争、利権争い、横領、裏切りが跋扈することになる。内部抗争は仏教ゲンリ主義を生み、ヒンドゥー原理主義と対抗することになる。

仏教ゲンリ主義になれば、ヒンドゥー原理主義者が犯した過ち（アヨーディアヤのモスク破壊）を犯すことになりかねない。日本人は仏教徒性善説にたち（そんなものは虚妄なのだが）、数が増えると日本メディアが注目し、喜ぶ仏教徒・僧・学者がいるようだが、はたしてシンプルに喜んでよいのだろうか。

いろいろと問題はあったが、様相ががらりと変わった。2002年にブッダ・ガヤーが世界遺産に登録されたからである。州政府の管轄下から、中央政府の管轄になったのである。

それによって、大菩提寺周辺を乱雑にしていた土産物店が撤去整備され環境がよくなった。これらはシュプレヒコールの成果ではない。世界遺産になったからである。仏教徒のためだけではなく、世界中の人々の遺産になった。これこそ仏教の理想とするところである。

ブッダ・ガヤー大菩提寺は、世界でも“稀有な聖地”になる。なぜなら（ヒンドゥー教徒を異教徒とするなら）、仏教徒よりも圧倒的多数の異教徒が参詣する、という聖地になるからである。

それでも、まだシュプレヒコールは止まない。前述の「管理委員会」は、そもそも意見を述べるボランティア諮問機関のようなもので、決定機関ではない。「全員仏教徒にしろ！」よりも、いろいろな方が加わった方が、むしろ“民主的”になる。

十善戒に、不悪口（ふあつく）、不両舌（ふりょうぜつ）がある。相手を悪く批難してはいけない。二枚舌を使ってはいけない。優しく思いやりのことばで日常の生活を過ごしなさい、という教えである。

シュプレヒコールの僧よ。十善戒を忘れることなかれ。